

# 外為マンスリーレビュー

2018/10/02

## Brexit交渉が佳境に

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ポンド/円</a>	⇒	不安定化は避けられない情勢 予想レンジ: 144.500~151.000円	2-3
<a href="#">豪ドル/円</a>	⇒	中国情勢を注視 予想レンジ: 79.000~84.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



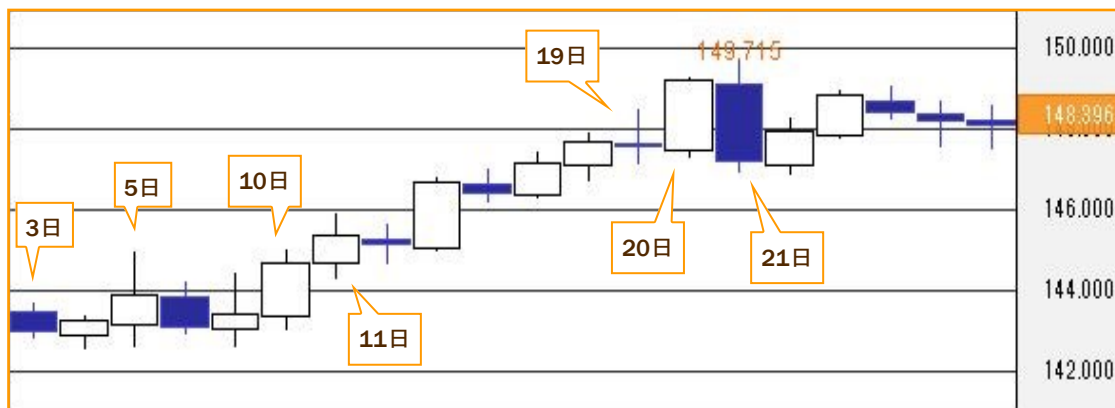
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ポンド/円 9月の推移

# GBP/JPY

9月のポンド/円相場は142.598～149.715のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.9%の上昇（ポンド高・円安）となった。上旬こそ、米中貿易戦争への懸念などから上値が重く推移したが、英国の欧州連合（EU）離脱＝Brexitを巡る協議への楽観的な見方が浮上すると中旬以降は上昇基調となった。カーニー英中銀（BOE）総裁が、2020年まで任期を延長して総裁にとどまる事が決まった事もポンド相場を下支えした模様。下旬にかけて再びBrexitへの不透明感が高まったが、英国の主要経済指標が好調だった事もあって、ポンドの下値は限られた。



### 四本値

OPEN	143.466
HIGH	149.715
LOW	142.598
CLOSE	148.120

3日	20人の英与党保守党議員がメイ首相のBrexit計画に反対する姿勢だと英紙が報じた事を受けてポンド売りが優勢となった。その後、ポンドは一旦持ち直したが、英8月製造業PMIが52.8となり、市場予想(53.9)および前回(53.8)を下回ると売りが再開した。
5日	Brexitを巡り、ドイツと英国が主要な要求を撤回したとの一部報道が流れると「合意なき離脱」への懸念が和らぎポンドが急伸。なお、報道では「Brexit合意に向けて、ドイツ政府が細部を詰めていない将来の経済・貿易関係に関する協定を受け入れる用意がある」とする関係筋の発言が伝わった。しかし、ドイツ側が報道内容を打ち消す姿勢を示唆し、合意無しも含めあらゆるBrexitのシナリオに備えていると表明した事から上げ幅を縮小した。
10日	Brexit問題でEUの首席交渉官を務めるバルニエ氏が、「双方が現実的になれば、第1段階の交渉について向こう6-8週間以内に合意が得られると考えている」と楽観的な見通しを示した事を受けてポンドが急伸。なお、バルニエ氏は前週にも「英政府が策定した白書は多くが有用」で、アイルランド国境問題の解決で新たな提案を検討する可能性は閉ざされていないなどと発言していた。
11日	英8月失業率は2.6%に悪化(前回2.5%)。一方、同失業保険申請件数は0.87万件と前回(1.02万件)から減少した。その他、5-7月の週平均賃金は前年比+2.6%と市場予想(+2.4%)を上回った。これを受けてポンド/円は145.80円台に上昇した後、144.70円台に急落するなど乱高下したが方向感が出なかった。
19日	英8月消費者物価指数が前月比+0.7%、前年比+2.7%と、市場予想(+0.5%、+2.4%)を上回り、前回(±0.0%、+2.5%)から加速するとポンド買いが一時的に活発化した。しかし、英紙が「英首相は、アイルランド国境問題でEU側の改善案を拒否の構え」と報じると、Brexitへの不安が再燃してポンドが急落。なお、記事によると、バルニエEU首席交渉官は、北アイルランドを英国の残りの地域とは別の税関管轄区域と見なすという主張を依然として取り下げていないとの事。
20日	英8月小売売上高指数が前月比+0.3%と市場予想(-0.2%)に反して上昇。前回値が+0.7%から+0.9%に上方修正された事もあってポンド買いが優勢となった。その後、EU非公式首脳会議において、メイ英首相が「合意なき離脱の準備はしている」、ユンケル欧州委員長が「EU27カ国は英国の合意なき離脱の可能性を準備」などと発言した事が伝わったがポンド売りには繋がらなかった。
21日	ラーブ英EU離脱担当相が「合意なき離脱に対しての準備は継続」「EUが交渉内容について真剣なのか疑問が残る」「EU側にも妥協が必要」などと発言したのに続き、メイ英首相が「EU離脱について悪い合意よりは合意なしの方が良い」「Brexit協議について英・EUは袋小路に陥っている」と発言。約4カ月ぶりの高値を付けていたポンド/円は、これらの発言を受けて急反落した。

## GBP/JPY

## 日経平均

OPEN	22819.17
HIGH	24286.10
LOW	22172.90
CLOSE	24120.04

## FTSE100

OPEN	7432.42
HIGH	7552.02
LOW	7220.50
CLOSE	7510.20

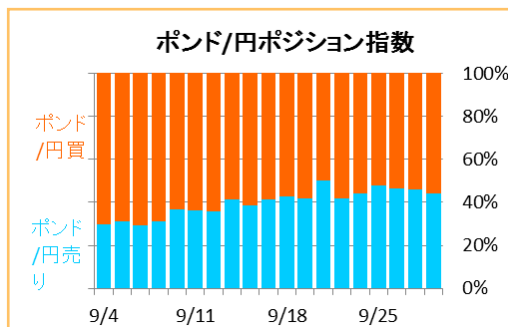
## 英2年債利回り

OPEN	0.734%
HIGH	0.860%
LOW	0.714%
CLOSE	0.824%

## 英10年債利回り

OPEN	1.451%
HIGH	1.642%
LOW	1.391%
CLOSE	1.573%

## 9月のポジション動向



## 10月の英国注目イベント

- ・9月英製造業PMI(1日)
- ・9月英建設業PMI(2日)
- ・9月英サービス業PMI(3日)
- ・英労働党大会(1-3日)
- ・8月英鉱工業生産(10日)
- ・8月英貿易収支(10日)
- ・9月英雇用統計(16日)
- ・9月英消費者物価指数(17日)
- ・9月英小売物価指数(17日)
- ・9月英生産者物価指数(17日)
- ・9月英小売売上高(18日)
- ・EU首脳会議(18-19日)

## 10月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

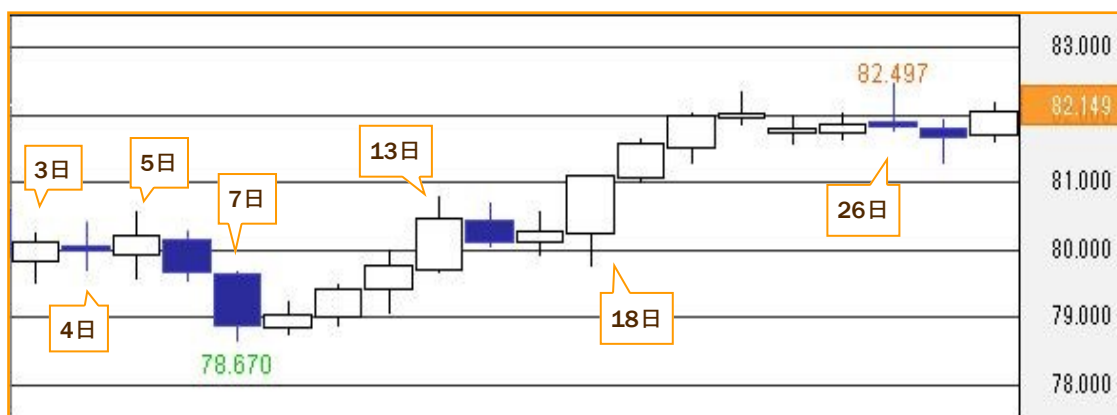
英国と欧州連合(EU)の離脱交渉は9月のEU首脳会議では進展が見られず、これまで期限としてきた10月中の合意形成はほぼ絶望的となった。このため、10月18-19日のEU首脳会議を経て11月中旬に臨時の首脳会議を開く事を検討する運びとなっている。争点は北アイルランドの国境問題に絡む通関の取り決めなどで、双方の間に横たわる溝は依然として深いようだ。今後も紆余曲折が予想され、場合によっては12月まで協議がもつれ込む可能性もある。また、英与党内でもメイ首相のEU離脱案(チェッカーズ案)に対し、強行離脱派からの反発が強まっており、首相が10月1-3日の英労働党大会をどう乗り切るか(去就問題に発展しないか)注目を集めている。今後もBrexit協議の難航はポンドの重しとなる公算が大きく、ポンド/円相場も不安定な値動きが見込まれる。ただ、現状では12月まで協議を先送りする余地がある上に、双方が「合意なき離脱」を回避するために動いていることから、ポンド安圧力が大幅に高まる地合いにはなりにくいだろう。(神田)

(予想レンジ: 144.500-151.000)

## 豪ドル/円 9月の推移

AUD / JPY

9月の豪ドル/円相場は78.670～82.497円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.7%の上昇（豪ドル高・円安）となった。米中貿易戦争への懸念が広がり、豪ドル売り・円買いが先行すると7日に78.60円台まで下落して2016年11月以来の安値を付けた。その後は、上海株が2016年1月以来の安値に沈むなど、中国を筆頭に新興国経済への不安が広がったが、それでも日米の株価が堅調に推移する中で豪ドルは反発基調を辿った。米中貿易戦争に関する悪材料は出尽くしが近いとの見方などから、前月の大幅下落の反動による買戻しが入ったと見られる。



## 四本値

OPEN	79.838
HIGH	82.497
LOW	78.670
CLOSE	82.059

3日	豪7月小売売上高は前月比+±0.0%にとどまり、市場予想(+0.3%)を下回るとともに前回(+0.4%)から減速。これを受けて、一時豪ドル売りが強まったが、79円台半ばでは押し目買いが入り、80円台に切り返すなど底堅く推移した。
4日	豪中銀(RBA)は予想通りに政策金利の据置き(1.50%)を発表。声明にも大きな変更点はなかったが、「18年前半の豪経済はトレンドを上回るペースで成長したと推定」など、比較的明るいトーンの声明だったことから、ショートカバーの動きも相まって豪ドル買いが強まった。
5日	豪4-6月期国内総生産(GDP)は前期比+0.9%、前年比+3.4%となり、市場予想(+0.7%、+2.9%)を上回った。これを受けて豪ドル買いが強まったが、上海株が安寄り後も軟調に推移するなどアジア株が総じて冴えない中、上げ幅を削った。
7日	トランプ米大統領は「中国からの輸入2670億ドル相当に対して追加関税を賦課する用意がある」と発言。2000億ドル相当への対中関税第3弾に続く、第4弾の発動も視野に入れている事が明らかとなり、リスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は78.670円まで下落して約1年10カ月ぶりの安値を付けた。
13日	豪8月雇用統計は失業率が5.3%と12年11月以来の低水準となった前月から横ばい、新規雇用者数は4.40万人増と予想(1.80万人増)を上回り、前回値(0.43万人減)から大幅な増加に転じた。予想以上に強い結果を受けて豪ドル買いが強まった。その後、トルコ中銀の大幅な利上げにより新興国不安が後退すると、米中貿易協議再開への期待感も相まって米国株や日経平均先物が上昇する中、豪ドル高が加速した。
18日	米国が中国製品2000億ドルに対して10%の追加関税を9月24日に発動すると発表。これを受けて、一時リスク回避の円買いが強まったが、事前報道によって発動は織り込み済みであったことから、日本株が安寄り後に切り返すと円買いは収束。2016年2月以来の安値を更新した上海株がプラス圏に持ち直すと豪ドル/円の上昇に弾みが付いた。なお、中国は、600億ドル相当の米国製品に関税を賦課する報復措置を米国と同じく24日に発動すると発表したが、市場の反応は小さかった。
26日	米連邦公開市場委員会(FOMC)の金利見通しやパウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長の会見内容がハト派的との見方から、ドルが売られ米国株が強含むと、豪ドル/円は82.497円まで上伸して8月9日以来の高値を付けた。ただ、米国株が手仕舞い売りに押されて反落すると、一転して豪ドル/円も下落。米長期金利の低下とともにドル/円が下落した事も豪ドル/円の重しとなった。

# AUD/JPY

## 日経平均

## NYダウ平均

## 上海総合指数

## 豪10年債利回り

OPEN	22819.17
HIGH	24286.10
LOW	22172.90
CLOSE	24120.04

OPEN	25916.07
HIGH	26769.16
LOW	25754.32
CLOSE	26458.31

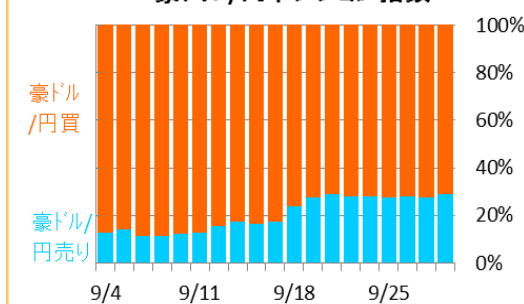
OPEN	2716.404
HIGH	2827.341
LOW	2644.296
CLOSE	2821.350

OPEN	2.491%
HIGH	2.773%
LOW	2.486%
CLOSE	2.668%

## 9月のポジション動向

## 10月の豪州・中国注目イベント

豪ドル/円ポジション指数



- ・ RBA政策金利発表 (2日)
- ・ 8月豪住宅建設許可件数 (3日)
- ・ 8月豪貿易収支 (4日)
- ・ 8月豪小売売上高 (5日)
- ・ 9月中国外貨準備高 (7日)
- ・ 9月中国財新製造業PMI (8日)
- ・ 9月中国貿易収支 (12日)
- ・ 8月豪住宅ローン件数 (12日)
- ・ 9月中国消費者物価指数 (16日)
- ・ RBA議事録 (16日)
- ・ 9月豪雇用統計 (18日)
- ・ 7-9月期中国GDP (19日)
- ・ 9月中国鉱工業生産 (19日)
- ・ 9月豪住宅建設許可件数 (30日)
- ・ 7-9月期豪消費者物価指数 (31日)
- ・ 10月中国製造業PMI (31日)

## 10月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

9月24日の米国による対中関税第3弾発動で米中貿易戦争はひとまず峠を越えたとの見方もあって豪ドル/円は底堅く推移している。ただ、トランプ米大統領は2670億ドル相当の中国製品に対する関税第4弾の発動をちらつかせており、今後の動向が気になる所だろう。また、こうした貿易戦争の悪影響が中国経済に及ばないか、注視する必要がある。10月19日に発表される中国7-9月期国内総生産(GDP)が、4-6月期の伸び(前年比+6.7%)を下回れば、市場に不安感が広がる可能性もある。なお、中国のGDPは世界金融危機の直後2009年1-3月期に記録した前年比+6.4%が過去最低の伸びであり、仮に19日の結果が前回を下回れば、これに接近する事になる。

豪中銀(RBA)の金融政策スタンスは10月2日の理事会でも「中立」のまま変化しなかった。10月31日の豪7-9月期消費者物価指数などのインフレ指標を確認したいところだが、急速に利上げ期待が高まる事は考えにくい。貿易を通じて豪州と経済的に密接な関係にある中国の動向が、10月の豪ドル/円相場のカギを握る事になりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 79.000-84.500円)